

『Excel ではじめる社会調査データ分析』の正誤表・修正点

2016年10月21日版

(初版二刷の正誤表) (初版一刷から二刷への変更点) の二種類を掲載しています。

- ・二刷を利用されている方は、(初版二刷の正誤表) をご覧ください。
- ・一刷を利用されている方は、両方をご覧ください。

(初版二刷の正誤表)

5章

頁	行	誤	正
p.139	図 5-14	偏差値	偏差積
p.154	図 5-23	$e_i = y_i - (a + bx_i)$	$e_i = y_i - (a + bx_i)$
p.164	図 5-31	図 5-30 と同じ図(a)が使われている	本来の図(b)に差し替え

図(a)

=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G2)

G	H	I	J	K	L	M	N
月収	支出	仕事	修正収入G	生活水準	支持政党	内閣支持	予測値
100	80	1	5	1	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G2)
42	42	2	4	3	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G3)
3	4	1	1	3	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G4)
0	1	1	1	4	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G5)
80	60	2	5	2	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G6)
11	9	1	2	9	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G7)
21	19	1	3	3	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G7)
19	18	1	2	4	2	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G9)
17	16	2	2	3	1	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G10)
15	12	1	2	4	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G11)
15	11	2	2	5	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G12)
16	14	1	2	4	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G13)
61	45	1	4	2	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G14)
33	22	2	3	3	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G15)
12	10	1	2	4	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G16)
30	31	2	3	3	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G17)
30	25	1	3	4	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G18)
30	32	2	3	3	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G19)
30	27	1	3	2	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G20)
30	20	2	3	3	2	1	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G21)
30	22	1	3	2	1	2	=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G22)

図(b)

=TREND(\$H\$2:\$H\$31, \$G\$2:\$G\$31, G8)

D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
収入G	支出G	読み書き	月収	支出	仕事	修正収入G	生活水準	支持政党	内閣支持	予測値
5	5	95	100	80	1	5	1	1	1	78.9
4	4	45	42	42	2	4	3	1	1	34.0
1	1	10	3	4	1	1	3	1	1	3.7
1	1	50	0	1	1	1	4	1	1	1.4
5	4	65	80	60	2	5	2	1	1	63.4
2	1	35	11	9	1	2	9	1	1	9.9
3	2	70	21	19	1	3	3	2	1	17.7
2	2	30	19	18	1	2	4	2	2	16.1
2	2	35	17	16	2	2	3	1	1	14.6
2	2	45	15	12	1	2	4	2	1	13.0
2	2	40	15	11	2	2	5	1	2	13.0
2	2	60	16	14	1	2	4	1	2	13.8
4	4	60	61	45	1	4	2	2	1	48.7
3	3	50	33	22	2	3	3	2	1	27.0
2	2	50	12	10	1	2	4	1	2	10.7
3	3	50	30	31	2	3	3	1	2	24.6
3	3	40	30	25	1	3	4	1	2	24.6
3	3	60	30	32	2	3	3	2	1	24.6
3	3	70	30	27	1	3	2	2	1	24.6
3	3	55	30	20	2	3	3	2	1	24.6

第6章

頁	行	誤	正
p.179	l.8	$\frac{1}{2} \sum_{i=1}^n x_i^2 - \bar{x}^2 = \frac{1}{n} \frac{n(n-1)(2n+1)}{6} - \frac{(n+1)^2}{4}$	$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i^2 - \bar{x}^2 = \frac{1}{n} \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} - \frac{(n+1)^2}{4}$
p.179	l.10	$s_{xy} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i y_i - n\bar{x}\bar{y}$	$s_{xy} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})$
p.197	l.13	$\frac{1-\theta}{1+\theta}$	$\frac{\theta-1}{\theta+1}$

索引

頁	行	誤	正
p.241	左段	ソフトウェア…22,23	ソフトウェア…20-23

(初版一刷から二刷への変更点)

まえがき

頁	行	誤	正
v	脚注	www.gmss.jp	www.qmss.jp

1章

頁	行	誤	正
p.19	l.5	量的データの分析方法の理解なしに、	つまり、量的データの分析方法の理解なしに質的データの分析を理解するのは難しいのである。
p.20	l.14	…は可能である。いわゆる日付（日数ではなく）なども、5月3日と5月4日、5月5日と1日ごとの間隔を示すが、掛け算ができない間隔データとして考えることができるが、これは、5月3.5日という解釈は難しいので離散データである。	…は可能であり、連続データである。しかし、（日数ではなく）日付などは、5月3日、5月4日、5月5日と1日ごとの間隔を示すので間隔データであるが、5月3.5日という解釈は難しいので離散データである。
p.21	l.19	2 ¹⁶	2 ²⁰

2章

頁	行	誤	正
p.69	図 2-25	男性（文字の下の部分が欠落） 女性（文字の下の部分が欠落）	男性 女性
	図 2-26	男性（文字の下の部分が欠落） 女性（文字の下の部分が欠落）	男性 女性
p.70	図 2-27	男性（文字の下の部分が欠落） 女性（文字の下の部分が欠落）	男性 女性


3章

頁	行	誤	正
p.88	1.21	なお, Excel では, TRIMMEAN	なお, Excel では TRIMMEAN
p.88	1.22	のように指定して両端から切り落とす合計の割合を指定して計算することができる.	のように両端から切り落とす割合を指定して計算できる.
p.90		p.88 の修正の結果, 1 行短くなるので, p.90 は表 3-6 だけになってすっきりする。この行ずれによる索引への影響はない。	
p.90	1.1	9 個の観測値のから除去する個数である.	9 個の観測値から除去する個数である.

4章

頁	行	誤	正
p.124	表 4-13	ページ冒頭掲載	ページ下へおいこんで掲載

5章

頁	行	誤	正
p.130	図 5-3	(高さの軸の左側に軸ラベルが抜け落ちているので新たに挿入する)	収入
p.130	図 5-3	軸の目盛りが 100.00 など小数点第 2 位まで表示されている。 例) 0.00	全て整数表示にする。 例) 0
p.131	図 5-5	(2つの図の左下角に2か所に挿入する)	0 0
p.137	1.7	図のラベルに記載	図のタイトルとして記載
p.141	図 5-16	負の値になる場合 	負の値になる場合
p.161	図 5-27	残差の e_i の左側から出ている矢印が非常に薄く, ほとんど透明になっている	はっきりした実線による矢印↑に訂正。
p.161	図 5-27	予測値と観測値から上に出ている線は, 見えないこともないがかろうじて見える程度の状態	点線による矢印↑にする。
p.169	1.3	数式の中辺のカッコの中, y_i の上は, バー (横棒) になっている $(\bar{y}_i - \bar{y})^2$	バーをハット (山形の記号) に直す $(\hat{y}_i - \bar{y})^2$

6章

頁	行	誤	正
p.188	表 6-18	$(O-E)2/E$	$(O-E)^2/E$
p.198	表 6.33	$Q=0.96$ $Q=0.92$	$Q=1.00$ $Q=1.00$
p.199	1.12	クラマーの V	クラメールの V 係数

7章

頁	行	誤	正
p.203	1.8	巻末のデータ XX	スタートアップ調査データのデータ ファイル7
p.206	1.5	もとは「層 (stratum)」に分けるこ とで, 図 7-7 のように何らかの基準に 基づいてグループ分けを行うことで あり, 層別解析・・・	「層 (stratum) に分けること」で, 図 7-7 のように何らかの基準に基づ いてグループ分けを行うことである。 さらに, 層別解析・・・

8章

頁	行	誤	正
p.232	下から 3行目	-で効いているから	- (マイナス) で効いているから

参考文献

頁			
p.235	誤	36. Simpson, E. H. (1951) “The interpretation of integration on contingency tables.” <i>Journal of the Royal Statistical Society</i> . Series B, 13(2), 238-241.	
斜体に する	正	36. Simpson, E. H. (1951) “The interpretation of integration on contingency tables.” <i>Journal of the Royal Statistical Society</i> . Series B, 13(2), 238-241.	
p.236	誤	47. Yates, F. (1984) “Test of significance for 2×2 contingency tables.” <i>Journal of the Royal Statistical Society</i> . Series A (General), 147(3), pp.426-463.	
斜体に する	正	47. Yates, F. (1984) “Test of significance for 2×2 contingency tables.” <i>Journal of the Royal Statistical Society</i> . Series A (General), 147(3), pp.426-463.	

索引

頁	行	誤	正
p.239	左段	クラメールのV係数 …193, 194, 198, 200	クラメール(クラマー)のV係数…193, 194, 198-200
p.240	左段	ソフトウェア…22	ソフトウェア…20-23
p.243	右段	無限母集団…9	無限母集団…9, 105